

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第5回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

- ・「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について

(2) 協議事項（公開）

- ・地域活動支援事業採択事業の内容変更について

(3) 自主的審議事項

- ・津有区の特長を生かした地域活性化策について

① 「前島密翁に関する勉強会」の振り返り

② 今後の進め方について

3 開催日時

令和3年9月27日（月）午後6時30分から午後7時50分まで

4 開催場所

津有地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：猪俣敦子、梅川康輝、大滝英夫、小林 進、千代金治、田中博三（副会長）

中島 功、藤井 修、藤本孝昭（会長）、古川勝夫、古川 仁（欠席1名）

- ・事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

- ・会議の開会を宣言

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【藤本会長】

- ・会議録の確認者：小林委員

次第 2 議題「(1) 報告事項」の『「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について』に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料 1 に基づき説明

【藤本会長】

大きく 2 つに分けて確認をしていく。

1 つ目は、今ほど説明のあった資料 1 である。これについて質疑を求める。

(発言なし)

資料 1 は「地域協議会に関する意識調査」の結果を受けて、短期的に解決しなければならない問題と中長期的な問題とに分け、市で対応すること・地域協議会で対応することに分けたものになる。

2 つ目は、次回の議題に入れる内容の準備として、「私の意見」という宿題についてである。各自の考えを記入し、10 月 13 日までに事務局へ提出してほしい。提出いただいた意見を事務局が整理し、その結果を受けて次回の会議で協議したいと思っている。

宿題について、質疑を求める。

(発言なし)

以上で次第 2 議題「(1) 報告事項」の『「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について』を終了する。

次に次第 2 議題「(2) 協議事項」の「地域活動支援事業採択事業の内容変更について」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・参考資料に基づき説明

【藤本会長】

事業内容の変更については、「津-7 戸野目・四ヶ所雁木通り活性化協議会」から提案のあった「戸野目・四ヶ所雁木通り活性化支援事業」の「わがまち再発見・寺子屋の開催」を年間 5 回から 4 回に変更し、その余剰金を利用して看板を設置したいとの

内容である。事務局の説明や、事業の変更内容等について質疑を求める。

【古川 仁委員】

変更内容にある「フィリップス邸の見学」がなくなったとのことだが、差し支えがなければ理由を教えてほしい。

【藤本会長】

事務局より説明願う。

【小林センター長】

事務局に入っている情報によると、当初、「フィリップス邸の見学」を事業内容の1つにあげていたのだが、期日が近くなり最終的な打ち合わせをしている中で、フィリップス氏の都合が悪くなったことが理由である。そういった事情より、今回は変更することとなった。

ただ、事業の目的を変えず、その余剰金を利用して看板設置することにより、各町家の周知を図ろうとの転換である。

【藤本会長】

他に質問等あるか。

(発言なし)

事業の一部内容変更の申し出について、認めるか否かを協議する。意見を求める。

【梅川委員】

今回は、中止となった分の予算を利用して、1万5,000円分を新たに看板制作費として計上するということだが、もし何もなくマイナスになった場合はどうなるのか。

【小林センター長】

申請については、通常、採択された金額により、最終的に実績報告を行うのだが、当然、予定していた費用がかからなくなることもあり得る。その場合には実績報告の中で報告していただき、減額で処理をしている。

ただ今回の場合は返金ではなく、地域活性化を目指すにあたって、変更分の資金を流用して事業内容を変更することにより、当初の目的を達成しようとの申請である。

基本的には、使用しなかった金額については、実績報告で減額との流れとなる。

【梅川委員】

返金となる場合には、市に返金されるということか。

【小林センター長】

そうである。差額については、銀行納付をする流れとなる。

【梅川委員】

返金された資金は、次年度の予算になるのか。

【小林センター長】

単年度予算であるため、来年度に繰り越しとはならない。

【藤本会長】

今年度は、590 万円の配分額に対して、約 190 万円の残額があった。その残額については、執行残として市に返還されることになるのだが、それと全く同じ考え方だと思う。

事務局の説明は、基本的に減額はあり得るということ、支出費目の見直しにより解消することが可能、との説明だった。システムの、本日の協議会で支出費目の見直しを認められると、当初の予定になかった看板を作ることができる。だが、認められなければ「変更は認めない」と提案者に回答することになる。

そういったことができるとの前提で、他の内容に資金を流用することを認めるか否かの審議である。

他に質疑がないようであるため、内容変更を認めることについて、採決を取る。

内容変更を認めることに賛成の委員は挙手願う。

(全員挙手)

採決の結果、内容変更を認めることで決する。

以上で次第 2 議題「(2) 協議事項」の「地域活動支援事業採択事業の内容変更について」を終了する。

次に次第 2 議題「(3) 自主的審議事項」の「津有区の特長を生かした地域活性化策について」の「①『前島密翁に関する勉強会』の振り返り」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料 2 に基づき説明

【小林センター長】

補足で情報提供である。

昨日のNHK大河ドラマ「青天を衝け」に前島密翁の出演シーンがあった。これは大変喜ばしいニュースだと思っている。出番は本当に少なかったのだが、次回 10 月 3

日の放送分では、かなり出演が多いと聞いている。舞台は静岡であり、主役の渋沢栄一の部下という立場で出演している。

【藤本会長】

先日の勉強会の概要について、資料2にまとめた。本日は勉強会を振り返り、委員より感想を確認したいと思う。

古川 勝夫委員より順に、出席した委員の感想を求める。

【古川 勝夫委員】

自分は上越市の生まれではなく、前島密翁についてなかなか勉強することもなかったため、この勉強会に参加して本当に前島翁は凄い人だと思った。子どもの頃から苦労して自分で勉強し、いろいろな考えを持ってやられたのだと感心した。

ぜひ、前島密翁の功績を津有南部地区だけではなく、より多くの人に知ってもらえればよいと思った。

【中島委員】

利根川館長のユーモアを含めた話で、非常に分かりやすく前島密翁の功績を改めて知ることができ、大変よかったと思う。

先ほどの小林センター長の話にあった、次回放送分の大河ドラマに前島密翁が多く出演するというのであれば、有線放送やタイムス誌に連絡をし、「見てください」と呼びかけてもよいと思う。

とてもすばらしい人だと思い、本も購入した。これから一生懸命勉強したいと思っている。

【千代委員】

利根川館長より、本当にすばらしい話を聞くことができ、感謝している。

自分も上越市出身ではないのだが、上越に来て50年ほどが経つ。いろいろな偉人の話も聞くのだが、もっと埋もれている人がいるように思う。記念館があることは分かっているのだが、実は一度も足を踏み入れたことがない。

だが、NHKの大河ドラマに前島密翁が出ると聞き、出番が少ないようだが、日本の基礎を作った彼のすばらしい記録は、本当に後世に残ってもよいと思っている。だが、利根川館長の話によると、個人的な資料があまりないとのことであり、少し残念に思う。

地域住民と地域協議会がどのような関わりをしていけばよいのかといったことも話

し合っていければよいかと思っている。

【大滝委員】

自分は上越市が地元ではあるが、津有区ではない、他の地区の生まれである。自分の知識の中では「郵便の父」としか頭になかったが、前回の勉強会に参加して、考え方が変わった。

前島密翁の歴史の中で、ある程度の功績について説明を受けたわけだが、まだ私的な部分が謎めいているところがかかなりあるような気もする。個人的には、どのように名前を世に広めていったのかについて、もう少し知ることができると嬉しい気もしている。だが歳月が経っているため、不明なところもあって致し方ないのかと思う。このように素晴らしい人物が上越にいたということ、改めて実感した。

【猪俣委員】

名前だけは知っていたのだが、利根川館長より話を聞くまでは、本当に自分にとっては未知の人であった。

すごく興味を持ったこととして、「自らの功績を多く語らない、謙虚であった」「お金儲けを考えなかった。だが、地元に多大な寄付をした」というところである。ふつうはそういった功績を「自慢したい」と思うものだと思う。そこが前島密翁の魅力の一つなのかと思った。

難しい本だと聞き、インターネットで少し調べたのだが、文章が簡単なものもあるとの記述もあった。自分もやはり興味があるため、ちゃんと本になったものを読み、もっと知りたいと思った。こんなに凄い人のことを、自分と同じように「郵便の父」としか知らない上越市民が多いと思う。せっかくの機会であるため、前島密翁の功績を、もっと多くの人に知ってほしいと思った。

【田中副会長】

自分も地元の間人ではない。自分の前島密翁の印象としては、「1円切手」「郵便事業の創始者」ということくらいで、長年その程度の印象であった。津有区に移り住み、記念館があって、勉強会を通じて具体的な功績を聞き、どのような人物かを知ることができ、非常に興味を持った。意外と、知っているようで知られていないような印象がある。それは地元の人たちも同じような人が多いと思う。

【藤本会長】

いくつかの本を読んでいたため、前島密翁が「マルチ人間」だということは知って

いたのだが、これほどたくさんの功績があることに驚いた。

もう1つ意外だったこととして、最後は横浜あたりで亡くなり、地元には戻って来なかったとあり、「地元へ貢献していない」といった噂を耳にしていたのだが、利根川館長の話聞き、上雲寺小学校や戸野目小学校に多額の寄付をしていることを知った。ぜひ各学校に足を運んで、どのくらいの寄付があったのかを見てみたいと思った。多分、それぞれ学校には、過去の遺物のようなものが展示されていると思うため、ぜひ見てみたいと思った。

自分も本を購入したのだが、難しい本は結構読み堪えがある。だが幸いにも、利根川館長より生誕100周年の際に発行された、簡単に訳した本があると聞いたため、まずはそこから読み始めようかと思っている。

これからの展望としては、まずは子どもたちにしっかりと「こういう偉人がいた」ということを伝えていきたい。少なくとも津有区の住民は、「前島密翁はこういう人だ」ということを、他の人に語れるようになるよう、何かできればよいと思っている。上越市民にとって「上越の宝」との意識を持ってほしいと思った。

少なくとも勉強会を実施する前よりも、もう少し突っ込んで前島密翁をどのように広めていくのかといった意見もあったように思う。

前回欠席した委員より、どのような印象を持ったかについて意見を求める。

【古川 仁委員】

小学生の時に前島記念館と芳澤記念館に草取りか何かで行った思い出がある。そして、新設された際に一度行ったことがある。

勉強会には参加したかったのだが、参加できず残念であった。

【藤井委員】

自分は生まれが津有区ではないため、前島密翁については「1円切手の人物」ということは程度の知識であった。津有区に来て子どもが小学校や中学校に通うようになった後も、小学校では中江用水をメインで学習していたようであり、前島密翁についてはあまり勉強していなかったようであったため、印象はあまり変わらなかった。だが、子どもが中学校に入学し、校長室に前島密翁の直筆の書があるとのことで、一度拝見したことがある。

激動の時代であったため、少し時代がずれていればもっと世間に知れ渡ったように思っている。時代が悪かったような感じもある。

それにしても、やはり地域を代表する著名な人物であるため、自分ももう少し勉強したいと思う。

【小林委員】

小学生の頃に、現在のような建物ではなかったが、前島記念館に行った記憶がある。

資料2の「振り返りシート」を見るまでは、やはり「郵便の父」の印象しかなかったが、これだけの業績がある人物であったと知り、非常に驚いている。

関連する書籍等を読んだことはなかったのだが、これから勉強してみたいと思っている。

【梅川委員】

自分も津有南部地区の出身であるため、小学校の時に現在の前島記念館に写生大会のようなことでいった記憶がある。利根川館長には、仕事の関係で話を伺ったことがある。他にも「前島密翁を顕彰する会」等、いくつかの団体があると聞いたのだが、意外と地元の津有地区のメンバーがいないと話していた。そのため、津有地区以外の人たちが一生懸命に活動しているイメージがあるため、その辺も何とかしていきたいと思っている。

【藤本会長】

非常に前向きに、前島密翁について受けとめているとの印象を持った。

また別のかたちで、深めるための学習会・研修会を実施できればよいと思っている。それについては、今後の進め方の中で考えていきたいと思う。

以上で次第2議題「(2) 自主的審議事項」の「津有区の特長を生かした地域活性化策について」の「① 『前島密翁に関する勉強会』の振り返り」を終了する。

次に「② 今後の進め方について」に入る。事務局より説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料3、4に基づき説明

【藤本会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

【中島委員】

三郷区の事例については理解したのだが、以前に津有地区でも「魅力マップ」に似たものを作成していると思う。津有地区の名所等、「こういったものがある」といった内容のものを、確か津有地区の公民館事業か何かで作ったような気がする。

【山崎主事】

事務局より補足である。

現在は津有地区公民館の階段に掲示されているが、確か平成 30 年度に公民館事業で地域の歴史マップを作成している。

【藤本会長】

その中には前島密翁についての記載はあるのか。確認したいのだが、壁に貼ってあるため、この場に持ってくるできない。どのようなものをイメージできなければ、議論もできないと思うため、もし可能であれば次回までに参考資料として提示したいと思う。貴重な意見に感謝する。

【中島委員】

ついでに言うと、諏訪地区でも、公民館に結構厚い冊子がある。地域の魅力をまとめたようなものであり、自分ももらってきたことがあるのだが、さまざまな地区で作成しているようである。

【藤本会長】

他地区では、結構このような活動があるとのことだが、事務局の説明にもあったように、地域協議会が主体となってアクションを取ることはできない。ビジョンを作ることはできるのだが、具体的なアクションをするためには、別団体を作らなければならない。

ただ、団体を作ったからといって、任せっぱなしにすることはできないため、裏から関わっていくことはできると思っている。

【中島委員】

思い出したのだが、津有中学校では昔、運動会や文化祭のことを「鴻南祭（こうなんさい）」と言っていたように思う。「鴻」は前島密翁、「南」は芳澤謙吉翁だったと思う。中学校にも何か資料等があると思うのだが、現在は高士中学校と合併してしまったため、その名前はやめたのだと思う。当時、中学校で行事等を行う際には、「鴻南祭」との名前で言っていた。情報提供である。

【藤本会長】

そういったことは、地元の間でなければ分からないことだと思う。そういったことも歴史として、きちんと押さえておく必要があるといった意味での提案だと思う。

【中島委員】

一度、中学校に出向いてもよいかもしれない。

【藤本会長】

確かに、中学校には前島密翁に関わるものがたくさんあると思う。

【千代委員】

結果的に、地域協議会は主体的にはなれないわけである。

いろいろな組織があると思うのだが、先ほど話に出たリーフレットを作成した団体や、前島記念館の利根川館長等、前島密翁に関する人たちと地域協議会と一緒に勉強できるような状態で、そこから発展していき、資料 3 記載の A から D に携わっていければよいと思う。

当然、ものを作るにしても、地域協議会で作成することはできない。そのため、関係する人や団体から地域協議会が学びながら進めていければよいと思っている。

利根川館長以外にも、もっと知っている人がいると思う。そういった地元の人や団体から地域協議会が勉強できる接点があればよいと思う。そういったところから進展してくことができれば、もっと広がっていくと思う。

【藤本会長】

今ほどの千代委員の発言は、今後の方向に関わった、かなり具体的な話であったと思う。

事務局の資料 3 の説明では、「深掘りの方向」の A・B と、「審議の方向性」の C・D との 2 つの側面があった。千代委員の話では、前島密翁を主に置いて提案 B をやりながら、提案 C の方向に持って行ってはどうか、ということだと思う。

さらに発展するならば、前島密翁だけではなく、津有区全体のよさを広げていく A や D に広がっていくとのスパイラルにいくようなかたちの提案だったと思う。

【梅川委員】

自分も先ほどの意見に似ているのだが、まず提案 B で関連団体と意見交換を行い、そして提案 C がよいかと思っている。受け皿となる団体についても、関連団体と調整して C にいくことができればよいと思っている。

【藤本会長】

千代委員とほぼ同じような方向性だが、C に特化するとの意見であったと思う。

今後の方向に関わる話になってきているのだが、他に意見等あるか。

(発言なし)

今程の 2 人の意見を整理すると、前島密翁に特化してもう少し深めていきながら、その中でCを模索していくとの方向性だと思う。

さらに、ゴールをCとするのか、Dまで広げるのについては、今後進みながら決めていくことになるかと思う。その中でAのようなことも、今後は考えていく必要も出てくるかと思う。

まずは、もう少し前島密翁について深掘りをして他団体との関わりをしっかりと持ち、その中から光明を求めていくといった雰囲気のプロ案だと自分は受けとめた。はっきりとしたゴールではないということである。

【田中副会長】

記憶がはっきりしていないのだが、津有区のまちづくり振興会だったか、各種団体を全て合わせたまちづくり団体があったと思う。その団体の副会長から話を聞いてはどうか。

副会長はもちろん地元の人なのだが、どの程度の考え方・構想なのかを知りたい。自分は地元ではなく分からないため、どのように考えているのか・どうしたいのかが分かれば、自分たちももっと具体的に参加できると思う。

【藤本会長】

今年3月の「広報わがまち つあり」という新聞を見ると、発行者は「津有地区地域づくり協議会 文化教養委員会」となっている。その中で下池部町内会長の「献碑祭 100周年に向けて」との記事が掲載されている。

だがこの「津有地区地域づくり協議会」という団体は、前島密翁に特化しているのではなく、津有地域の「地域づくり」という視点である。資料3の「検討シート」で言うと、BとCに特化せず、もう少し広い立ち位置になっている。下池部町内会長の立場は、そういうことなのだと思う。

そのため、微妙なところだと思う。下池部町内会長に地域づくり協議会の副会長として話を聞く場合、献碑祭の実行委員長でもあるため、立場が難しいところもある。そのあたりも考えなければならない。

【千代委員】

話を聞いていると、地域協議会が越権行為をしている気がしなくもない。地域協議会がそこまでやらなくてもよいのではないか、地域活動支援事業の審査・採択をしていけばよいのか、という思いもある。

いろいろな諸団体があるため、コンタクトを取り、意見を聞きたい・聞いてもらいたい気持ちがある。越権行為になるのではないかと心配になる部分もある。

【中島委員】

前島記念館の利根川館長より資料をいただいております、「鴻爪痕（こうそうこん）」という分厚い本もあるが、あれ以上のものは自分たちの中では集められないと思う。

先ほども発言したのだが、中学校には「鴻南祭」もあり、戸野目小学校では「ふるさと戸野目」という副読本のようなものがあるのだが、その中にも前島密翁のことが記載されている。この副読本には他にも多くの人のことが書かれている。

例えば、地域内で自分たちが簡単に入ることができるのであれば、小学校や中学校だと思う。上雲寺小学校は分からないのだが、戸野目小学校と今の雄志中学校にどのようなものがあるのかを、例えば、前島記念館の利根川館長と一緒に行って見せてもらってはどうか。

いきなり他団体と話をするとっても、結局は皆、素人である。「鴻爪痕（こうそうこん）」以上のものは絶対に作ることはできないと思う。ただ現在、残っているものは何か、まずは地域協議会または利根川館長と一緒に行って見せてもらわなければ、とても太刀打ちできないと思う。

まずは、今ある資料を確認することから始めなければ、どれぐらいのものを作ることか・PRしたいのか、考えることは難しいと思う。まずは調べる・教えてもらう・資料収集から始めることが大事だと思う。

【藤本会長】

整理をする。

まず基本的に、どちらかというと、前島密翁について深掘りしたいということ。そのために、例えば、各学校にある資料は何かを集め、地域協議会としてもある程度の知識等を持てるようにしてはどうか。

他団体の人たちは、かなりの勉強をしているため、自分たちよりもよく知っている。太刀打ちできないにしても、それなりに何かを持った状態で話し合いをしながら深掘りをしていく。

方向性としては、どういう組織になるのかは別としても、何らかの組織を後援しながら立ち上げ、前島密翁について何かまとまったものができるとうい雰囲気だと思った。

さらに進んでいくのであれば、前島密翁だけではなく、「津有区のよさ」ということに視野を広げ、遠くのゴールとしては三郷区の事例のような、誰が見ても分かりやすいマップができるとういと思う。

中期目標と長期目標に分かれるのだが、自分はこのようなニュアンスで受けとめた。今後の進め方としては、中島委員の発言にあったように、自分たちでも入手できる前島密に関する情報を、まずはもう少し集めてみることだと思う。

例えば、津有区出身の人であれば、昔の小学校・中学校時代の書き物等に何か載っているものがあるかもしれない。案外、学校にはそういったものが残っていないものである。統合した学校については、特に言えることである。各自そういったことを調べてほしい。

また各学校とどのようにコンタクトを取るのかについては、事務局と相談しながら正副会長で検討していきたいと思う。

どれにするのかを決定するわけではないのだが、まずは前島密翁について、もう少し深めていきながら進めていくということによいか。

(よしの声)

各自、どんどん情報を収集し、何かあれば事務局に提供してほしい。

また、先ほども話に出た、他地区での事例等についても、何かあれば情報提供してほしい。

以上で「② 今後の進め方について」を終了する。

最後に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

- ・ 次回の協議会：10月25日（月）午後6時30分から 津有地区公民館 大会議室
- ・ 内容：自主的審議

他に何かあるか。

(発言なし)

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。